

今日の法話

道端の僧侶に何を語る 信じることと考えること

数年前から、横浜駅の雑踏の中に立ち、行き交う人々の話を聴くという活動を続けてきました。月に数度程度のささやかな実践ではありますが、の中には多くの思いや気づきと出会うこともあります。幸いにも多くの方から応援をいただいて今日まで細々と続けて参りました。

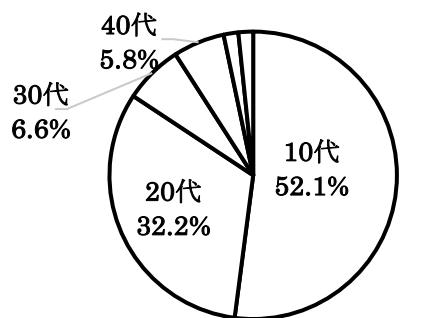
辻立ちというは政治家がよくやっているイメージですが、江戸の頃など辻説法や辻談義などと言いまして道端で説法をする僧侶がいたそうです。更に時代を遡れば日蓮が鎌倉にて辻説法を行ったときれ、小町大路に日蓮辻説法跡を見るることができます。日蓮に限らず市中の聖たちは民衆に向けて様々な形で教えを説いていました。今も昔も人々は混迷の中に生き、救いを求めています。私達僧侶はその願いをすくい上げるために修行せねばなりません。それこそが菩薩としての生き方なのではないでしょうか。

さて、日本人は無宗教であるとよく言われます。一方で「いや、みんな神社に行くではないか」と反論する人もいますね。なぜこのような議論が起ころのかというと「宗教」と「信仰」は別物であるためです。「宗教」は広辞苑によれば「神または何らかの超越的絶対者あるいは神聖なものに関する信仰・行事」とされます。この語は明治時代に作られた英語の「religion」の翻訳です。明治になり、西欧列強の文化文明が入つてくれば、今まで忌避してきたキリスト教を排斥するのではなく、理解し受け入れなければなりません。そのためには新しい言葉を作り出したのです。この翻訳には「教門」といった別案もあり、「教」という部分に訳者らが注目していたことがわかります。その意味では、教えに重点を置かない神道や祖靈崇拜は宗教ではなく自然な信仰と呼ぶほうが適当なのではないかと考えます。理屈ではなく、ただありがたいから手を合わせるという自然な祈りの営みです。仏教はそこから更に踏み込んで心をどう定め、いかに生きるのかを示します。その意味で仏教は宗教であるとができるのだと思います。

現代に目を向けると地下鉄での事件以来、日本における宗教忌避は根深くなりました。多くの被害者を出した事件は今なおその傷跡を残します。これも無宗教化の要因でしょう。しかし、私が感じている世間の風はだいぶ変わっているように思えます。それは私を含め單にオウム事件や当時の宗教バブルを知らない世代が増えてきたこともあるでしょう。しかし、現代では科学への信仰が先立つてしまう。科学とは人間の知恵の積み重ねであり、及ぶところはあくまでその積み重ねた範囲に過ぎません。今を生きる私達の不安を消し去ることができないのは、この百年の歴史を見ても明らかです。結局、どれだけ便利な道具ができても扱うのは人間であり、心なのですから。

比叡山の僧侶と話しているなかで「理屈でお寺に来た人は長続きしない」とお話ししました。「信じる」といふことは、思考の結果ではありません。信仰は理性に先立つとは西洋では古くから言われるものですが、日本で言えば神様やご先祖様への態度はまさに人知の及ばぬモノへの畏敬であり、信仰は理屈でどうにもできないところにあるのです。「信」とは「身」であり、「心」であると私は考えます。身体で感じ、心に宿るものなのです。華厳経においては「信」は功德の母であるとされ、すべての修行の根本となるのです。話は辻立ちに戻りますが、今まで仏教に触れたことのなかつた人が理屈でなく、人と人との関わりの中で「いいな」と感じてもらうことこそが私がこの活動を行う目的のひとつなのです。

年 代	訪問者	
10 代	63 人 (男性 28 人、女性 35 人)	52.1%
20 代	39 人 (男性 14 人、女性 25 人)	32.2%
30 代	8 人 (男性 7 人、女性 1 人)	6.6%
40 代	7 人 (男性 5 人、女性 2 人)	5.8%
50 代	2 人 (男性 1 人、女性 1 人)	1.7%
60 代	2 人 (男性 1 人、女性 1 人)	1.7%



訪問者内訳の表と円グラフ

先の表と図は、私が二〇二五年に話を聴いた二二八名のうち、記録を取つてある一二一名の方の年齢と性別のデータになります。いかがでしょう？皆さんのイメージとはだいぶ違う結果になつたのではないでしょうか。約八割が三〇歳未満の若者なのです。

仏教に興味を持つのは年齢を経てからと無意識に思つてしまふのかかもしれません。しかし、考へてもみてください。彼ら彼女らの年齢の子たちは常に迷い、何が正解なのかを大いに悩みます。「彼氏（彼女）が欲しい」「別れてしまつた」「仲良くなりたい」「学校の勉強についていけない」「将来の目標がわからない」など多くは恋愛や人間関係、勉強や進路などの悩みで、少しだけでも聞いてもらいたい、違う意見も知りたいというものです。一方で、それによつて自分自身の人生をも左右するほどの悩みを抱え、誰に相談したら良いのか分からないと途方に暮れている子もいます。彼らにこそ、心の宗となる芯を持ち、前を向いて歩んでいただきたいのです。そして、彼らが将来、本当に困つたとき、ふとした時にでも私の事を思い出してもらい、仏様との御縁を結ぶための種まきでもあるのです。

冒頭で日蓮の辻説法についてお話しましたが、このお話は現在ではなく後世の創作であつたとされます。では、日蓮はどのように布教をしていたかというと、やはり一人ひとり膝を突き合わせて布教したとされます。どうしても近年は法話というと講演のような形式を取りがちですし、私もやりがちですが講義のようになつてしまふ。しかし、これだけではなかなか一人ひとりの心に届かせるということはできません。膝を突き合わせて真摯に話を聴くという姿勢こそが今の時代には必要なのです。

現代は物質の時代から心の時代へと移り変わつていると私は感じます。かつては車や家といった「モノ」が幸せの指標でありました。しかし、現代では多くの物事がスマートフォンひとつで知ることができます。物事には限りのないことが否応なしに実感させられます。そしてSNSの発達によつて「誰かに認められなければならない」という欲求に取り憑かれる人も増えてます。今の子が特別といふことはありません。皆さんの若かった頃を思い起こしてください。多くの人は「私の時代にSNSのがなくてよかった」と思うでしょう。このようにネットが中心となり、地に足のつかなくなつた寄る辺のない人々にとって、心こそがまずもつてケアしなければならない対象なのです。また、このような問題は何も若い世代に限つた話でもありません。現代の人々は「信」を失い足元が不安定になつています。心を共にできる場というのが必要なのです。お寺というのはその場にならなければなりませんし、それを私達も目指してまいります。

最後に「悩み」を聴く際に私が心に留め置いている最も大切なこと「縁起」の考え方です。これは仏教の根本であり、華厳経が最も強調するものです。すべての事柄は縁起によつて成り立つということは、悩みも縁起によつて成り立つています。悩みは「それ単体であるのではない」ということに気づくことができれば自ずから解決への道筋は示されるのです。

南無日月光妙法蓮華経

※十二月の勉強会は令和八年の一年を通しての御靈視アドバイスです。一年の動向を参考にして公私ともに役立ててください。個人年間靈視も受け付けています。

*十一月のラッキーカラー、暗剣殺、五黄殺（十一月八日～十二月七日）※一年通してのラッキーカラーは緑色です。
*暗剣殺、五黄殺とは凶方位の事で移転増築や旅行など控えた方が良い方位となります。

十一月のラッキーカラー　白　緑　暗剣殺　南西　五黄殺　北東

【お知らせ】

- ① 十二月の勉強会の日程　普賢光明寺（鎌倉）：十二月二日（火）六日（土）七日（日）正午より
横浜教会　：　十二月十三日（土）午後二より　横浜市南区花ノ木町二丁目三十七番一望月宅にて
横須賀支部　：　十二月二十一日（日）午後二時より　産業交流プラザ第四会議室にて
小田原支部　：　十二月二十八日（日）午後二時より

②

大本山東大寺参拝ならびに不動堂護摩供養　：　十二月十六日（火）
東大寺において開山堂（良弁僧正像）や三月堂執金剛神像等の御開扉がござります。また同日不動堂にて当山僧侶による護摩法を行じ、二月堂と大仏殿の特別参拝もいたします。現地集合となります。人数の確認が必要ですの別紙にてお申込みください。（詳細は別紙でご確認ください）

③

俱利伽羅大龍不動明王初護摩法を令和七年一月二十五日（日）に厳修いたします。初護摩法により神仏のお力を授かり、皆様の祈願成就と来年一年の厄除け（星供養）をご祈念いたします。

④

毎年年末に行われる煤払い（本堂等の掃除）は十二月七日（日）勉強会前に行います。集合八時

お忙しい時期ではあります、心を磨く観音道場のお清めとなりますが、是非ご協力をお願いいたします。

⑤

仏像彫刻教室：十一月九日（日）十二月十四日（日）十二時より十五時まで。

⑥

大山参拝登山：十一月二十四日（月・祝）午前七時集合　大山寺にて十年に一度の大黒様のご開帳も行われております。中腹までの参拝も可能ですのでぜひご参加くださいませ。詳細は別紙（HP）にもアップされています）